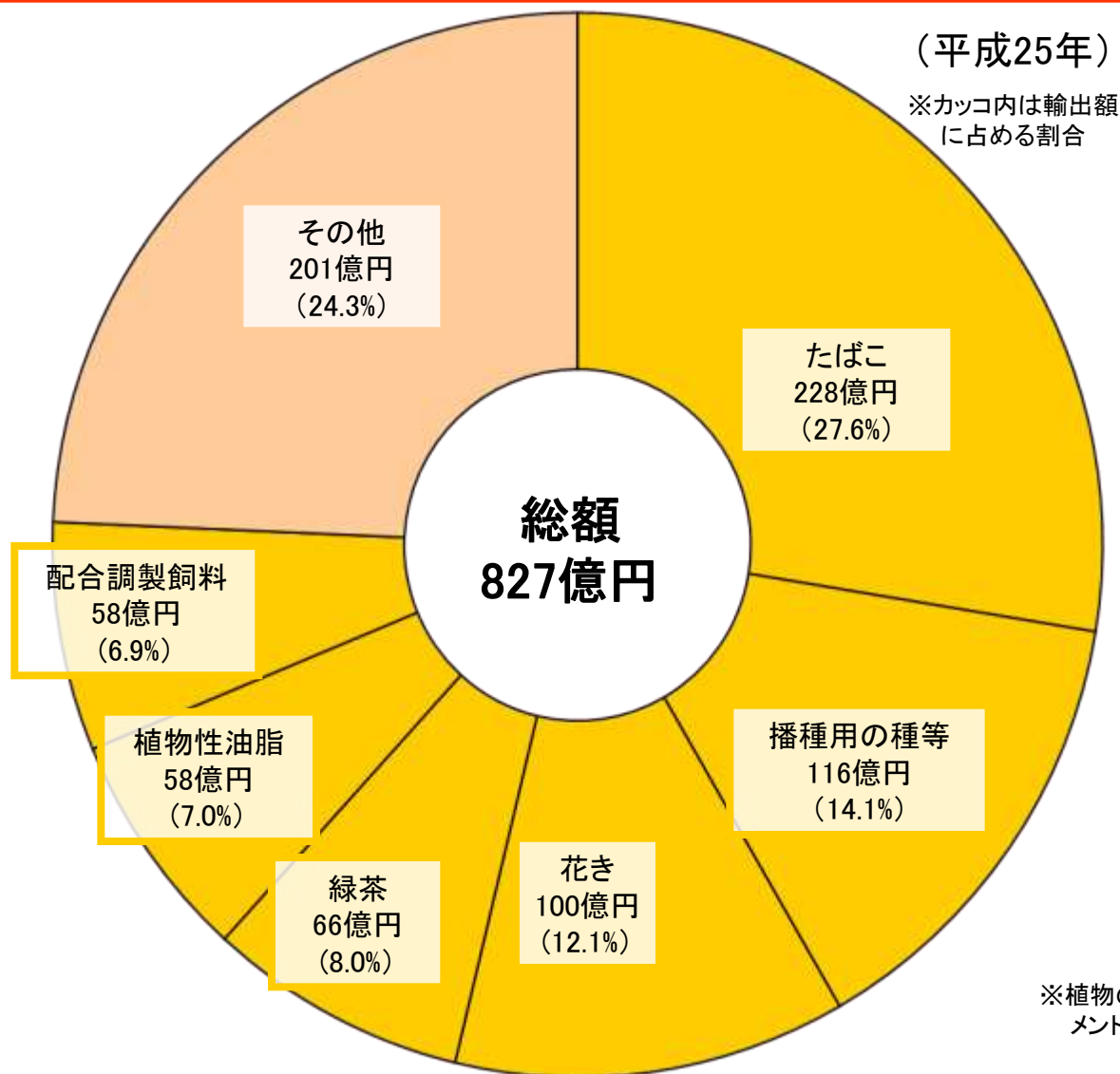




その他農産物の品目別内訳

MAFF

- その他の農産物では、たばこ、播種用の種等、花きなどの割合が多い。



(単位: 億円)

品目名	平成24年	平成25年	増減率
たばこ	248.8	228.3	▲8.2%
播種用の種等	93.5	116.4	24.5%
花き	86.2	99.9	15.8%
植木等	81.7	94.3	15.4%
苗物類	3.1	3.6	17.2%
切花	1.2	1.7	42.2%
緑茶	50.5	66.1	30.8%
植物性油脂	47.2	57.9	22.6%
ごま油	29.6	39.6	34.0%
配合調製飼料	63.0	57.5	▲8.8%
メントール	45.0	56.7	26.0%
植物の液汁エキス	24.3	28.1	15.7%
インスタントコーヒー	18.1	24.9	37.1%
コーヒー	7.0	8.2	17.1%
茶のエキス	6.1	7.5	23.7%
ペットフード	5.6	6.1	10.2%
ココアペースト	1.9	2.2	14.5%
ぶどう糖	1.3	1.9	44.8%
砂糖(精糖)	1.8	1.7	▲5.8%
生糸	1.2	1.1	▲8.7%
その他	49.2	62.7	27.3%
その他農産物計	750.9	827.2	10.2%

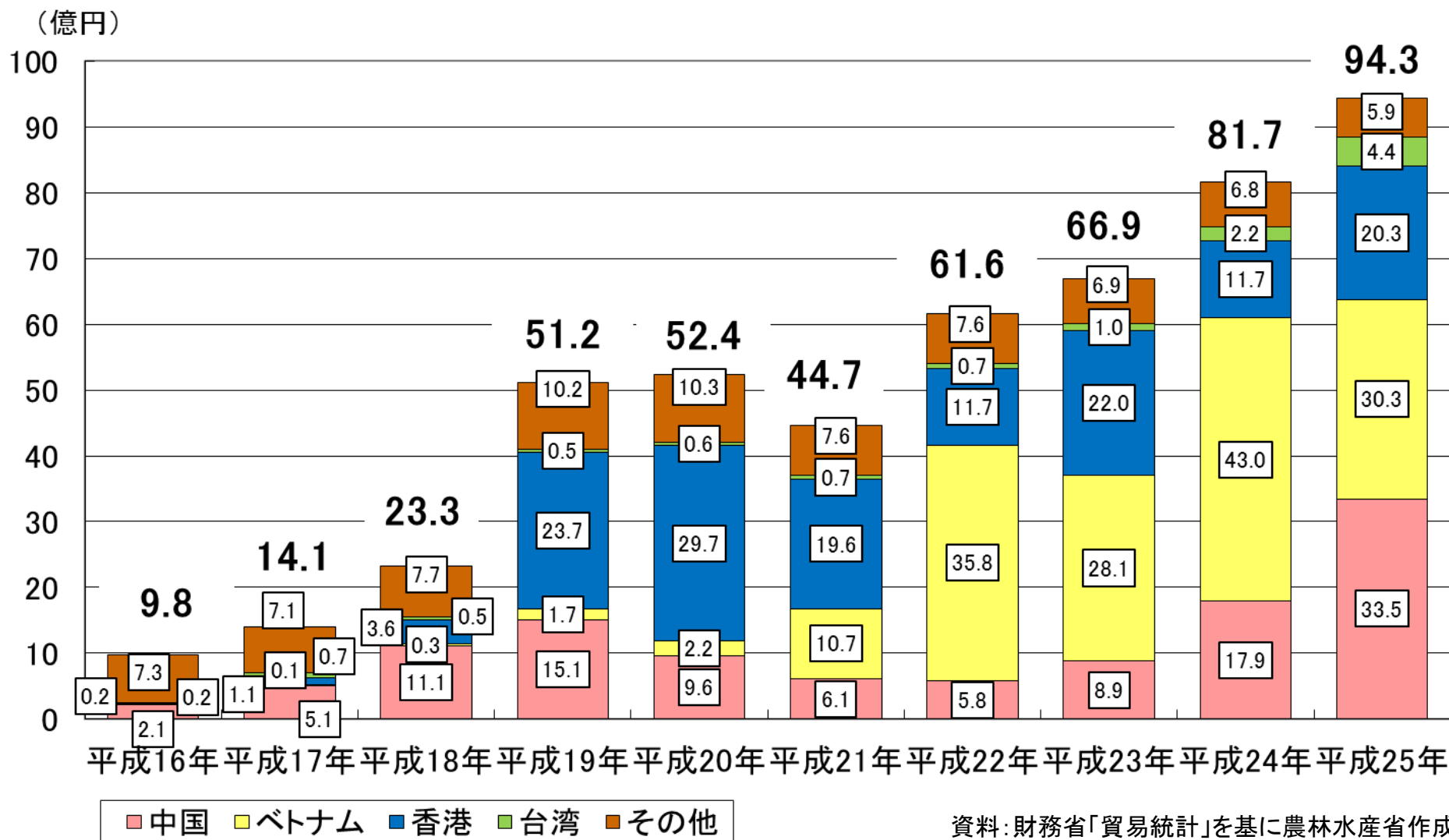
※植物の液汁エキス・・・用途は健康食品や化粧品など。
メントール・・・ハッカから抽出される成分で、チューインガムや歯磨き等に使用。



植木等の輸出額・輸出先国の推移

MAFF

- 植木等(植木類、盆栽類、鉢物類)の輸出額は、増加傾向。平成25年の輸出は中国、ベトナム、香港向けだけで全体の約9割を占める。

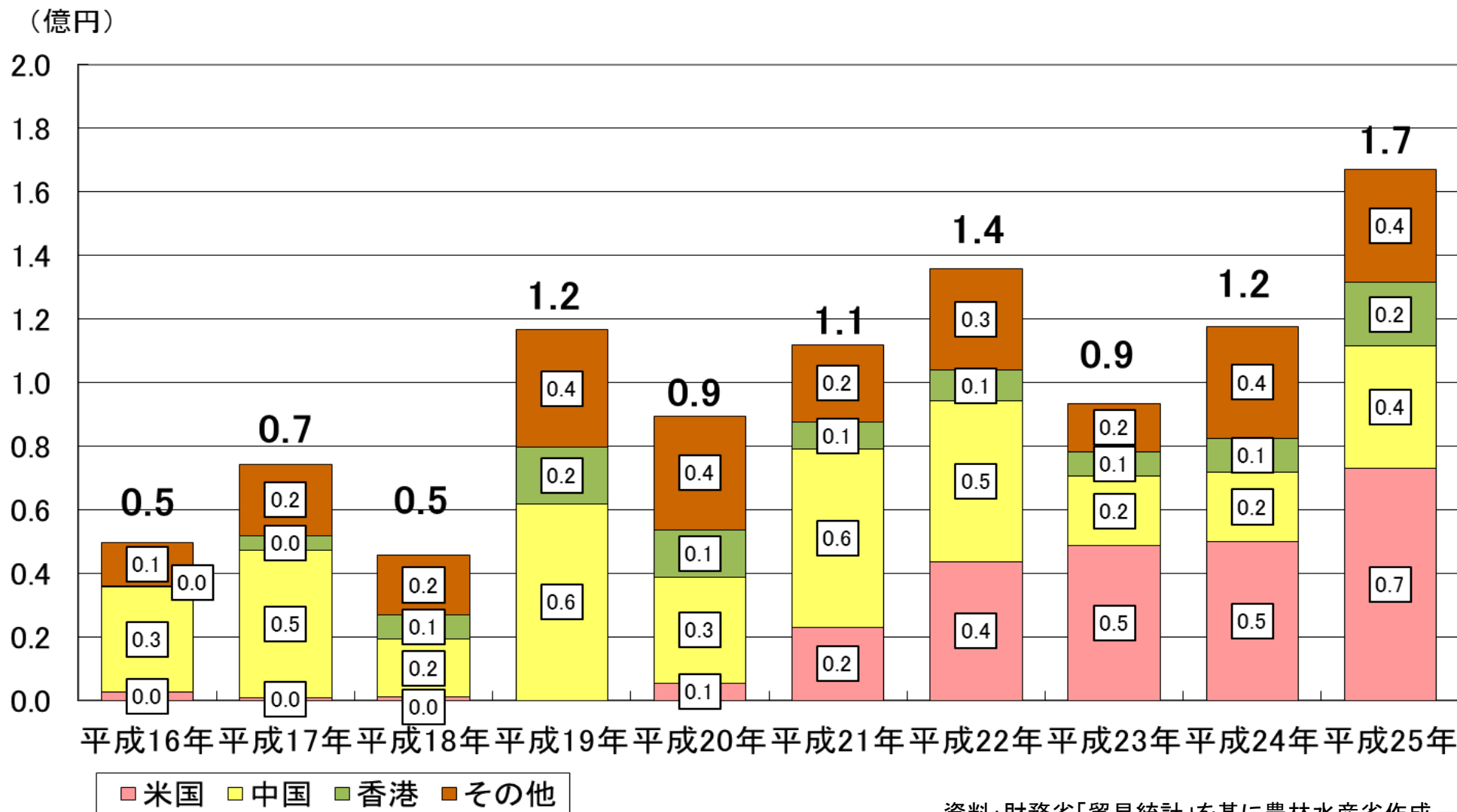




切花の輸出額・輸出先国の推移

MAFF

- 切花の輸出額は、米国を中心に近年増加傾向。平成25年の輸出は米国、中国、香港向けだけで全体の約8割を占める。



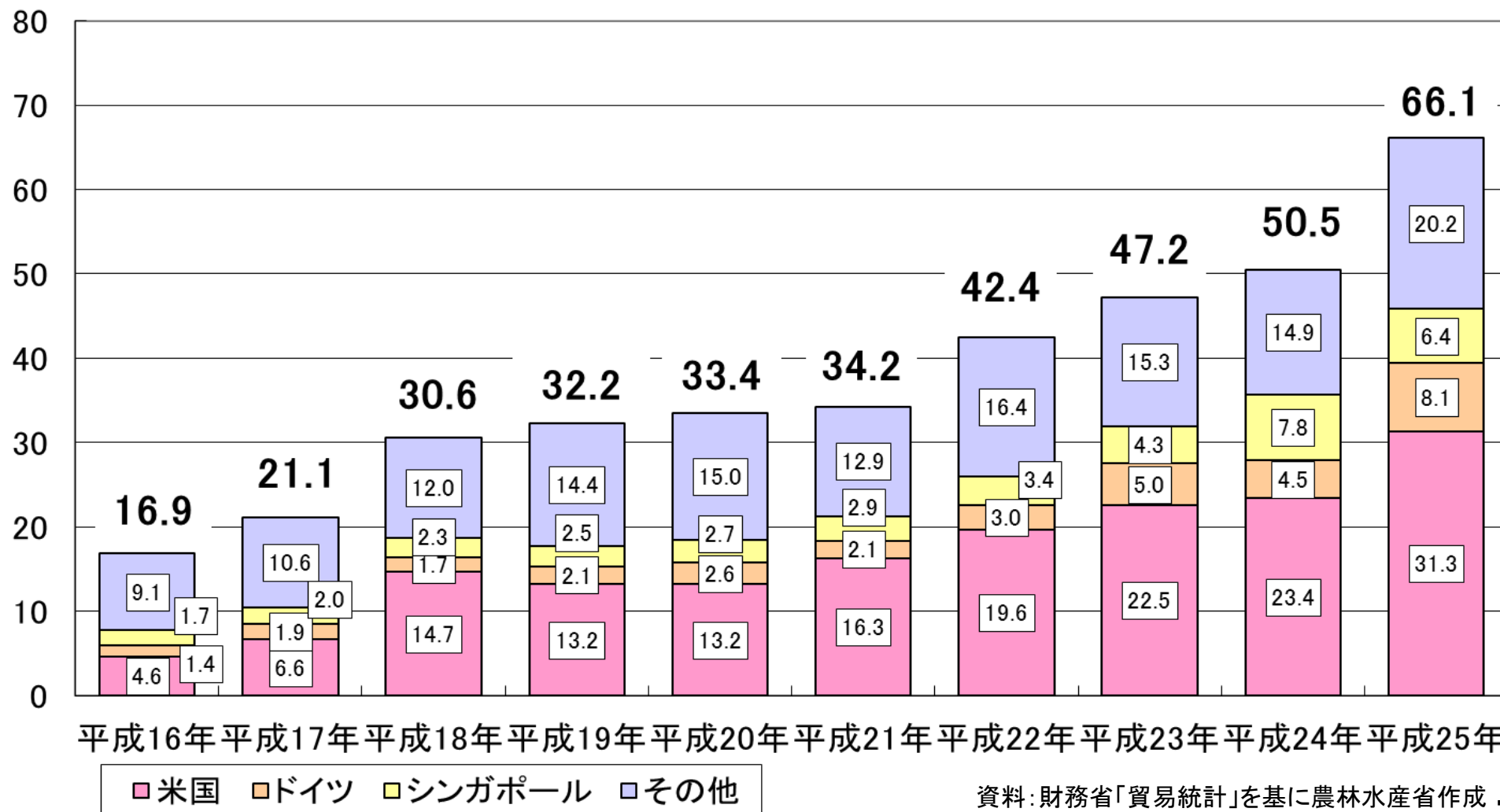


緑茶の輸出額・輸出先国の推移

MAFF

- 緑茶の輸出額は、順調に増加。
- 米国向けの輸出額が多く、店頭販売用の緑茶の需要が好調。

(億円)

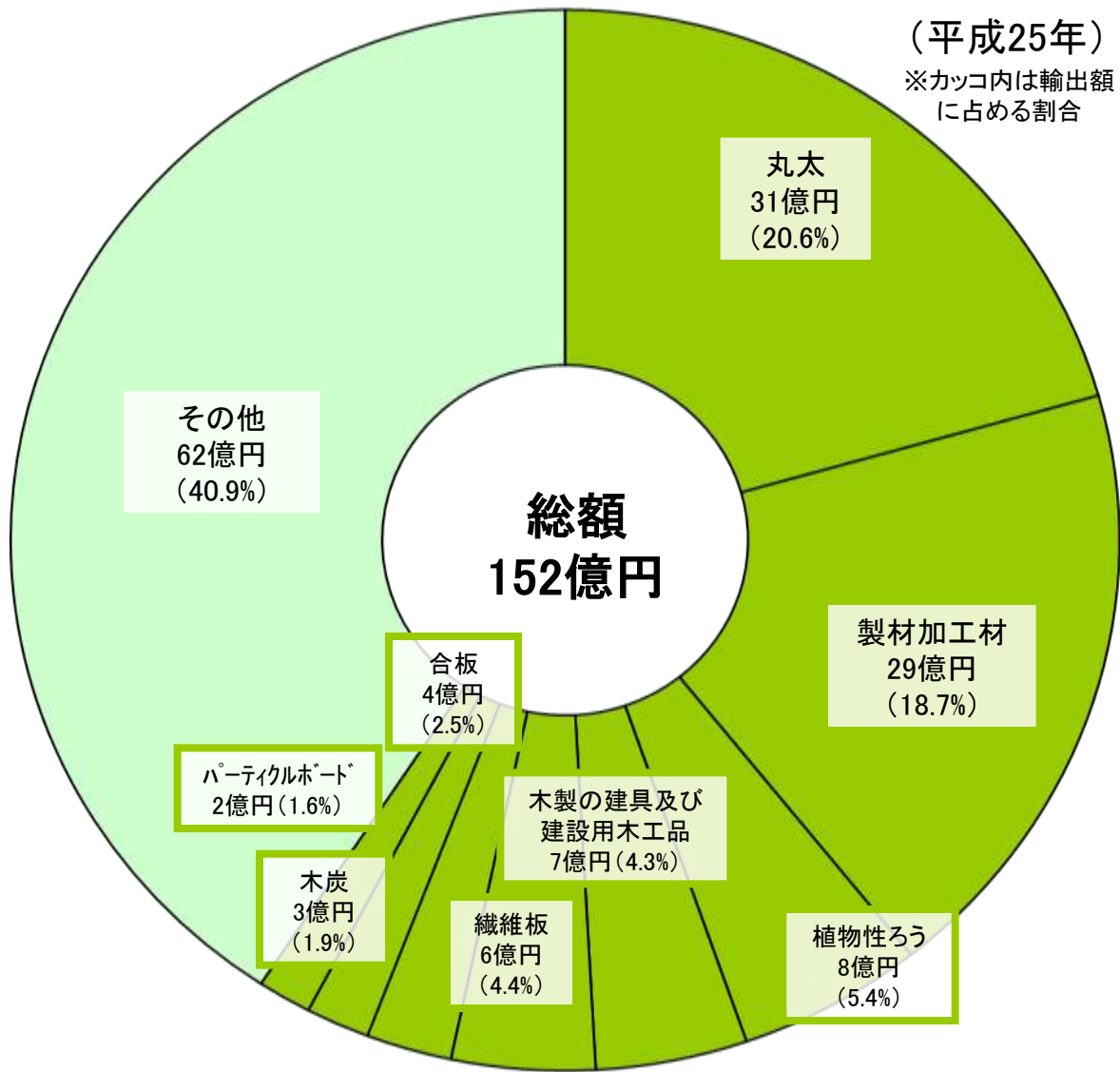




林産物の品目別内訳

MAFF

- 林産物の品目別内訳をみると、丸太及び製材加工材の割合が多い。



(単位: 億円)

品目名	平成24年	平成25年	増減率
丸太	14.0	31.4	123.6%
製材加工材	25.2	28.5	12.8%
植物性ろう	8.5	8.3	▲2.9%
木製の建具及び建設用木工品	5.0	6.7	34.2%
繊維板	4.9	6.4	29.7%
合板	3.4	3.8	13.5%
木炭	3.4	2.8	▲16.4%
パーティクルボード	3.0	2.4	▲19.3%
その他	51.0	62.1	21.8%
林産物計	118.4	152.4	28.7%

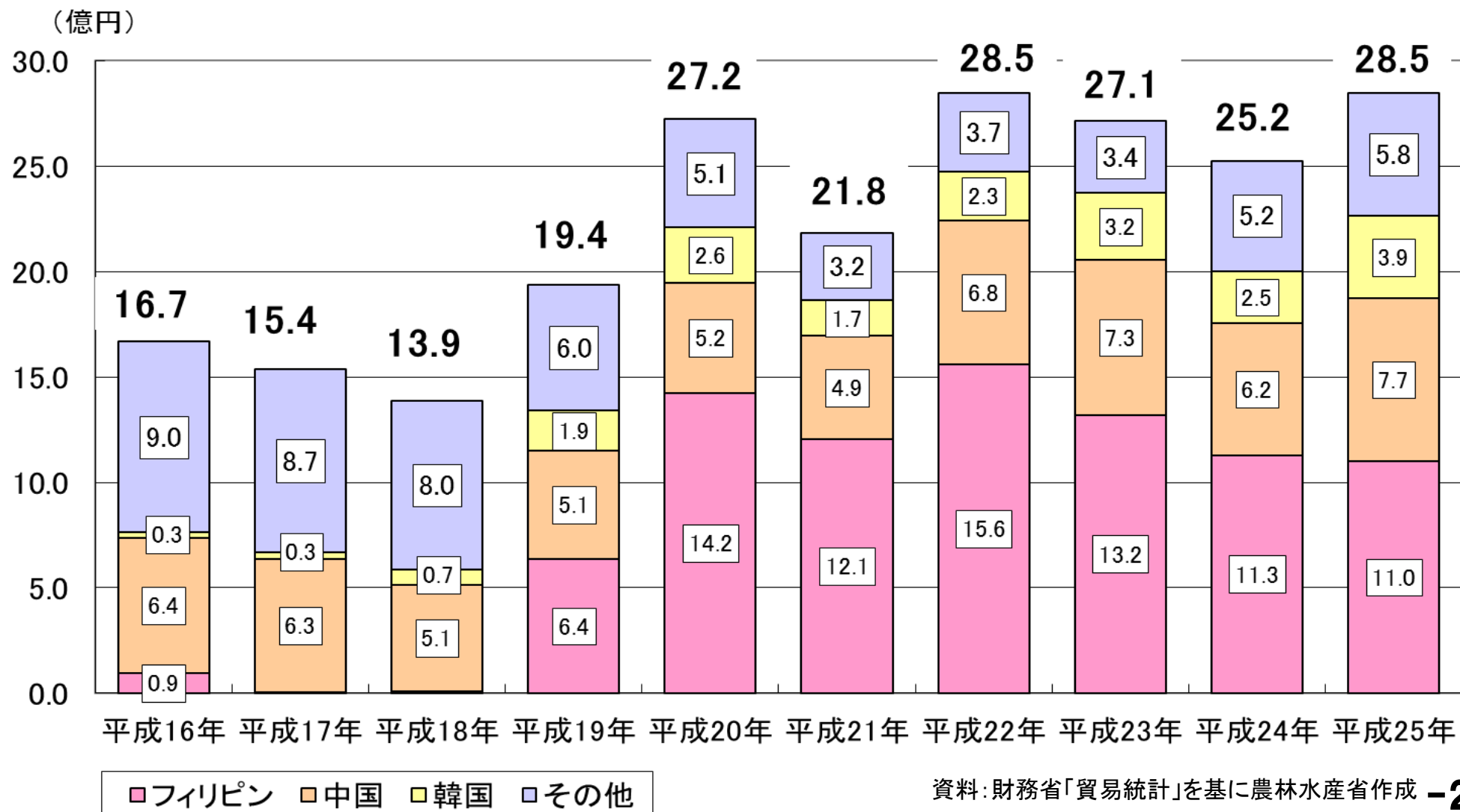
※ 植物性ろう…用途は、化粧品など。
木炭…用途は、お香専用炭(いわゆる香炭団(こうたどん))など。



製材加工材の輸出額・輸出先国の推移

MAFF

- 製材加工材の輸出額は、増加傾向。
- 特に、平成19年以降は、フィリピン向けが主力。



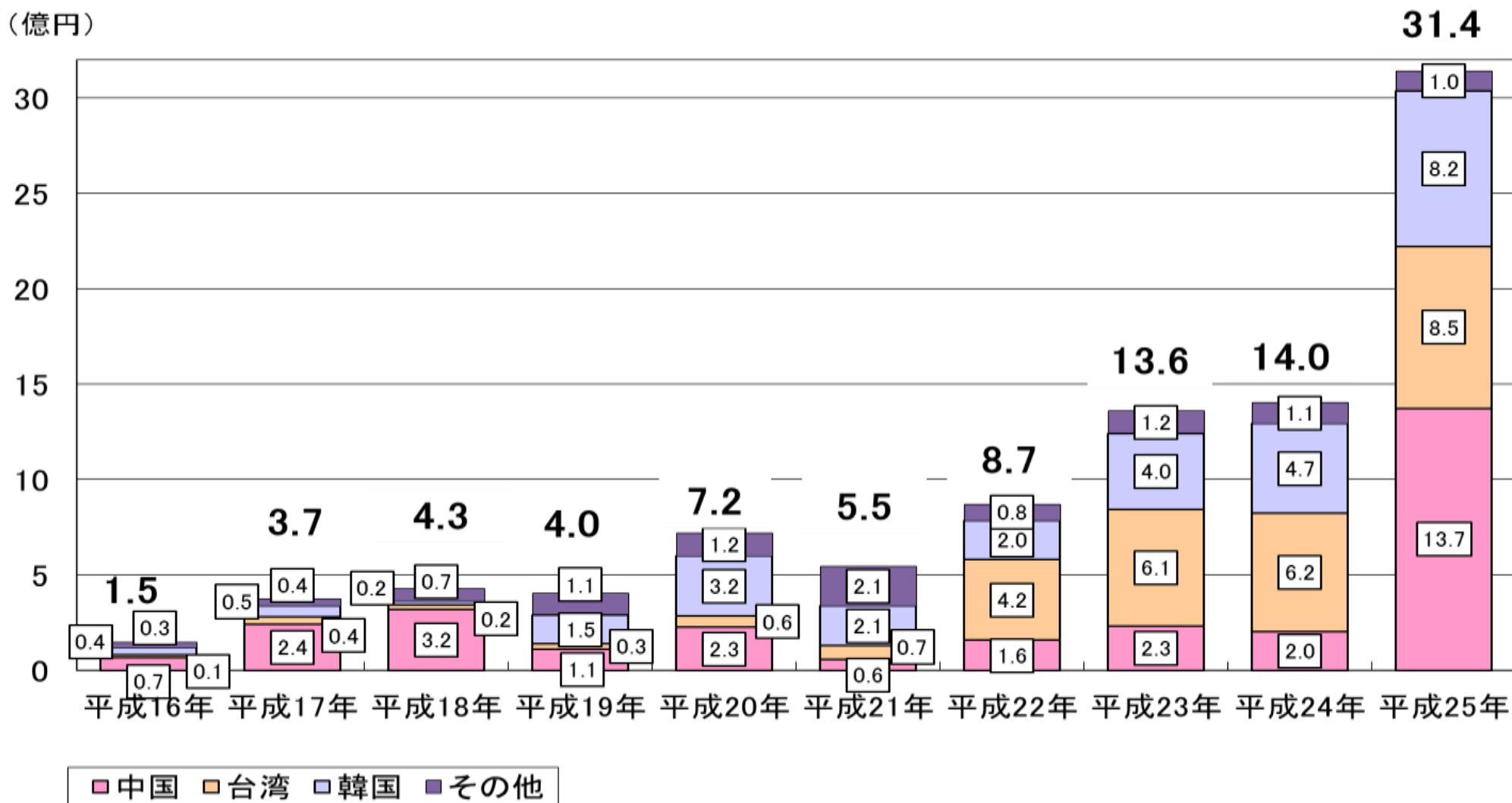


丸太の輸出額・輸出先国の推移

MAFF

- 平成25年は、丸太の輸出額が大幅に増加。
- 特に、中国での木材需要の増加等により、中国向けの輸出が大きく増加。

(億円)



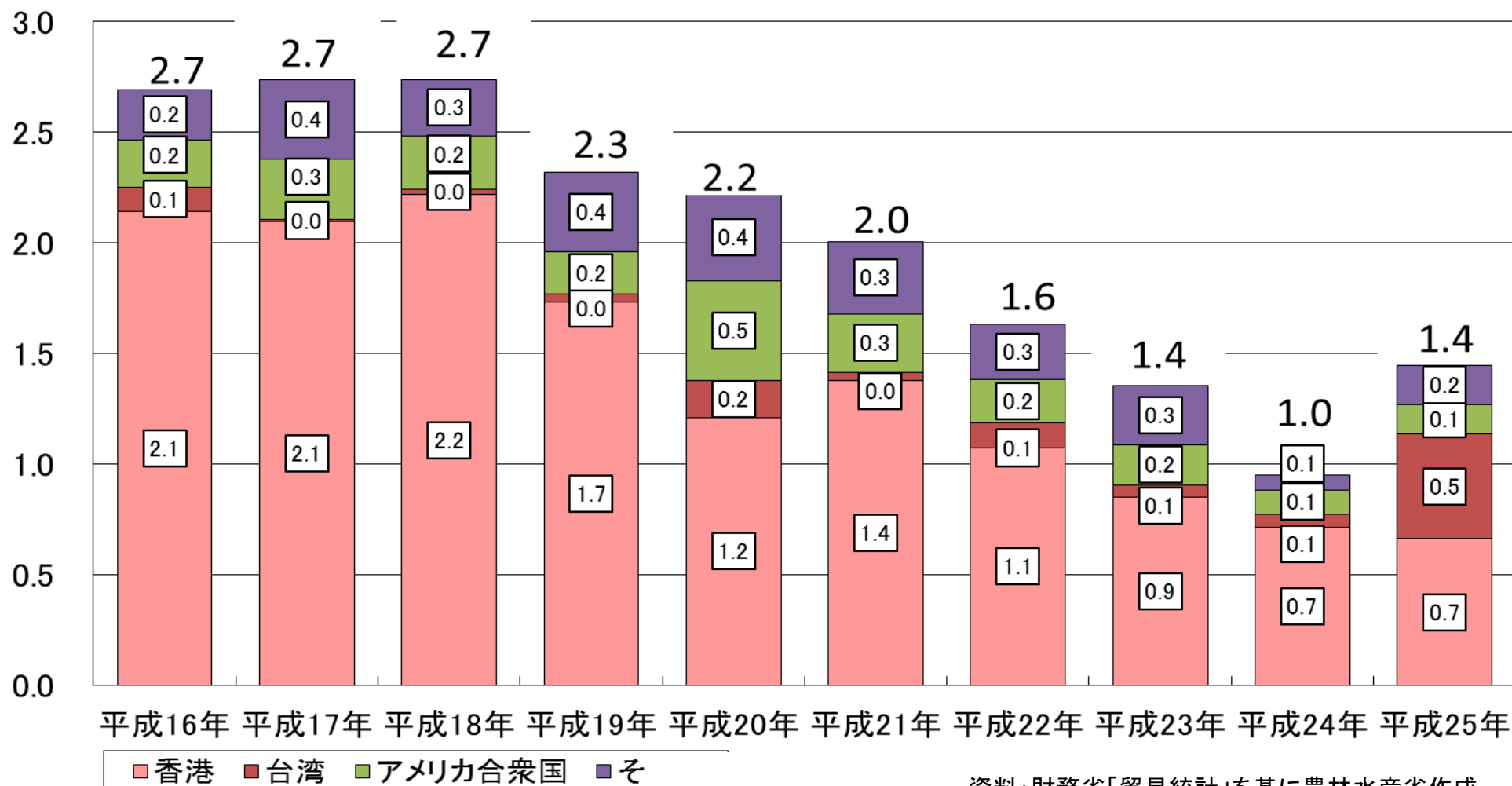


乾しいたけの輸出額・輸出先国の推移

MAFF

- 乾しいたけの輸出額は、減少傾向。
- 主な輸出先は香港。

(億円)



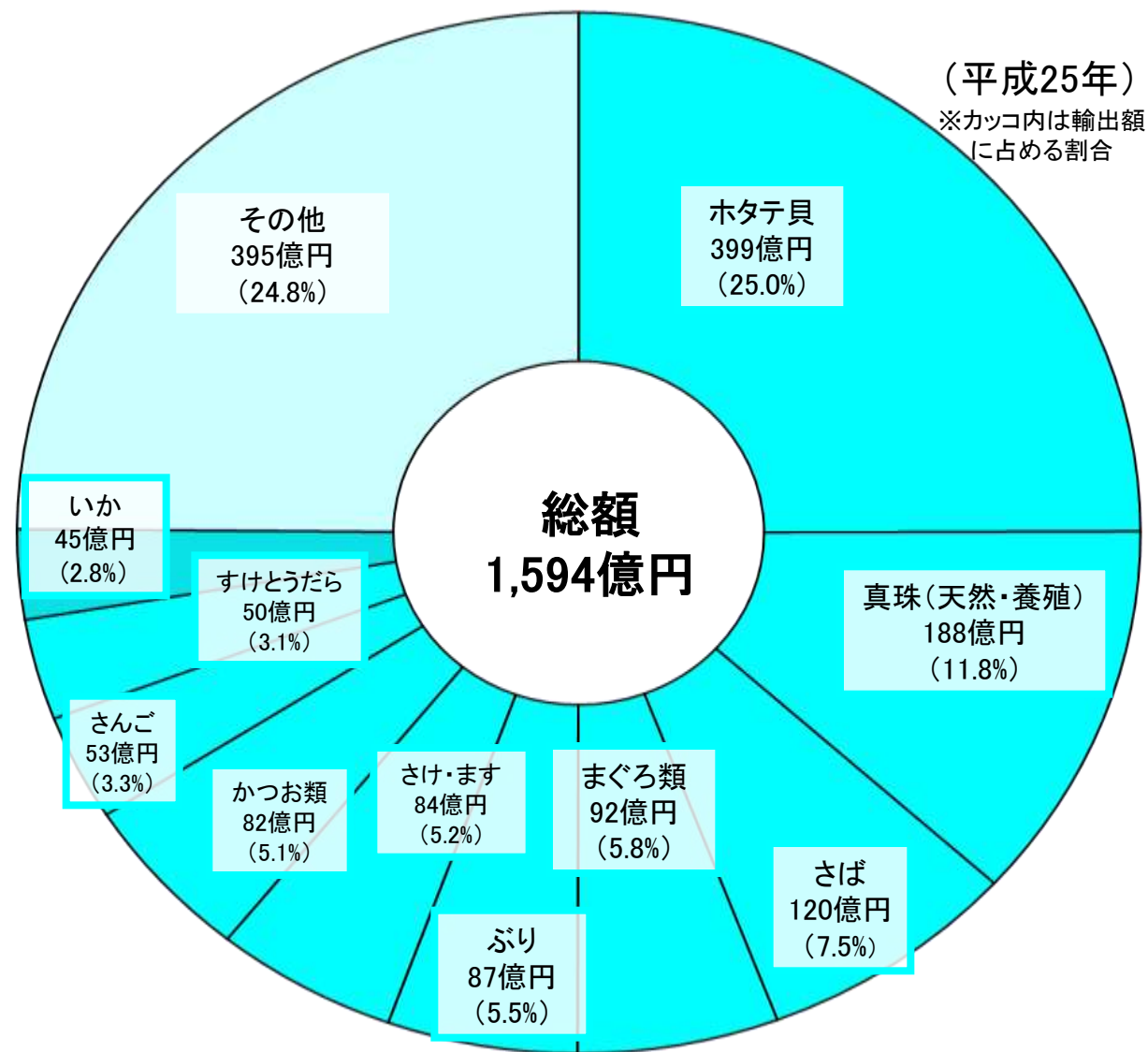


水産物(水産調製品以外)の品目別内訳

MAFF

- 水産物(水産調製品以外)の品目別内訳をみると、ホタテ貝、真珠(天然・養殖)、さば、まぐろ類、ぶりなどの割合が多い。

(単位:億円)



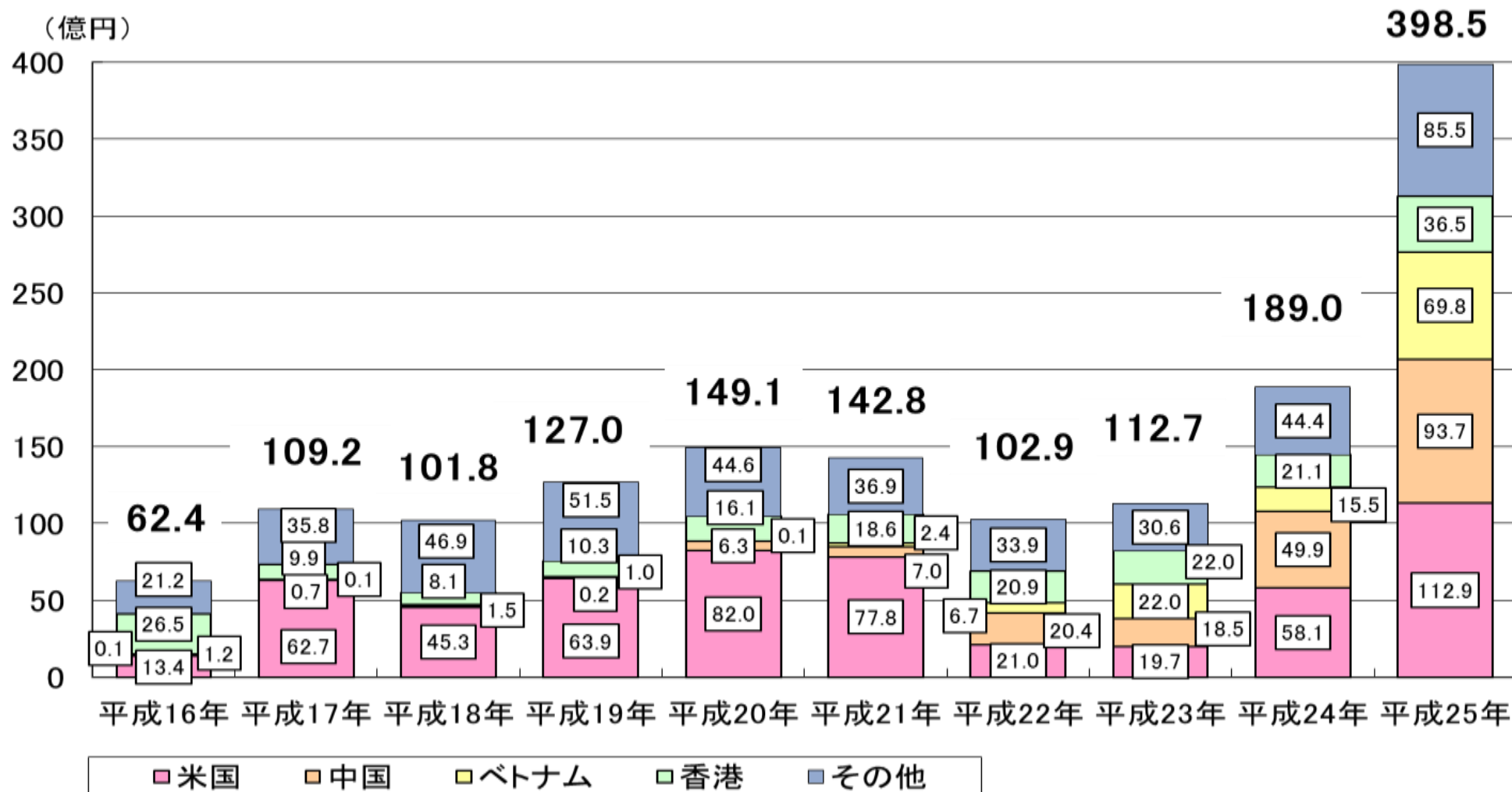
品目名	平成24年	平成25年	増減率
ホタテ貝(生・蔵・凍・塩・乾)	189.0	398.5	110.9%
真珠(天然・養殖)	165.2	188.1	13.9%
さば(生・蔵・凍)	92.1	119.6	29.8%
まぐろ類(生・蔵・凍)	88.9	92.2	3.7%
ぶり(生・蔵・凍)	77.3	87.3	13.0%
さけ・ます(生・蔵・凍)	61.4	83.7	36.4%
かつお類(生・蔵・凍)	47.9	82.0	71.3%
さんご	41.4	52.6	26.9%
すけとうだら(生・蔵・凍)	37.3	50.0	34.1%
いか(生・蔵・凍)	63.3	44.5	▲29.8%
いわし(生・蔵・凍)	14.6	41.2	181.8%
錦鯉等観賞用魚	27.2	29.7	9.1%
さんま(冷凍)	12.7	16.9	33.4%
たい(活)	15.2	15.1	▲0.4%
魚油(肝油除く)	7.6	11.6	53.0%
干しのり 焼きのり 味付けのり	7.7	9.9	28.0%
たら(生・蔵・凍、すけとう除く)	10.1	7.6	▲24.4%
さめ(生・蔵・凍)	6.1	7.6	24.2%
乾こんぶ	6.9	7.4	7.7%
ひらめ・かれい(生・蔵・凍)	2.8	5.8	109.4%
たこ(活・生・蔵・凍・塩・乾)	3.4	5.2	55.6%
かに(冷凍)	5.7	4.6	▲19.8%
えび(冷凍)	2.8	4.4	58.9%
魚粉	3.3	3.3	▲1.6%
めろ(生・蔵・凍)	3.6	2.9	▲19.9%
ふかひれ	4.1	2.4	▲41.5%
ほや(活・生・蔵)	1.6	1.9	19.1%
寒天	1.1	1.3	16.6%
うなぎ(活)	4.2	0.9	▲79.3%
その他	192.1	215.5	12.1%
水産物(水産調製品以外)計	1,196.4	1,593.5	33.2%



ホタテ貝の輸出額・輸出先国の推移

MAFF

- ホタテ貝は、我が国の主力輸出産品。平成25年は、輸出が顕著に増加。



数字は生鮮、冷蔵、冷凍、塩蔵、乾燥

資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成 -32-

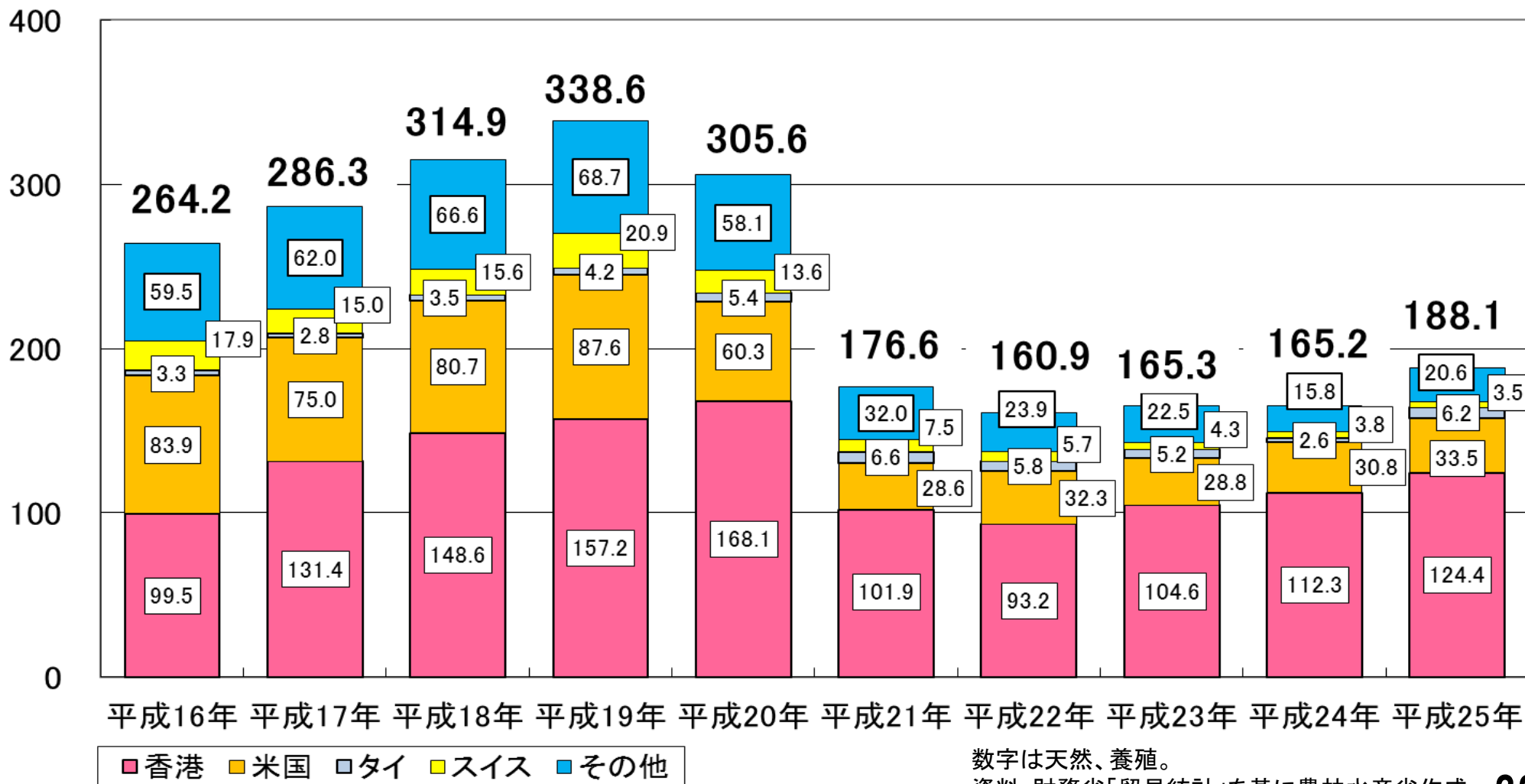


真珠(天然・養殖)の輸出額・輸出先国の推移

MAFF

- 真珠は、主に香港向けの輸出が大半を占めるが近年は輸出が低迷している。

(億円)



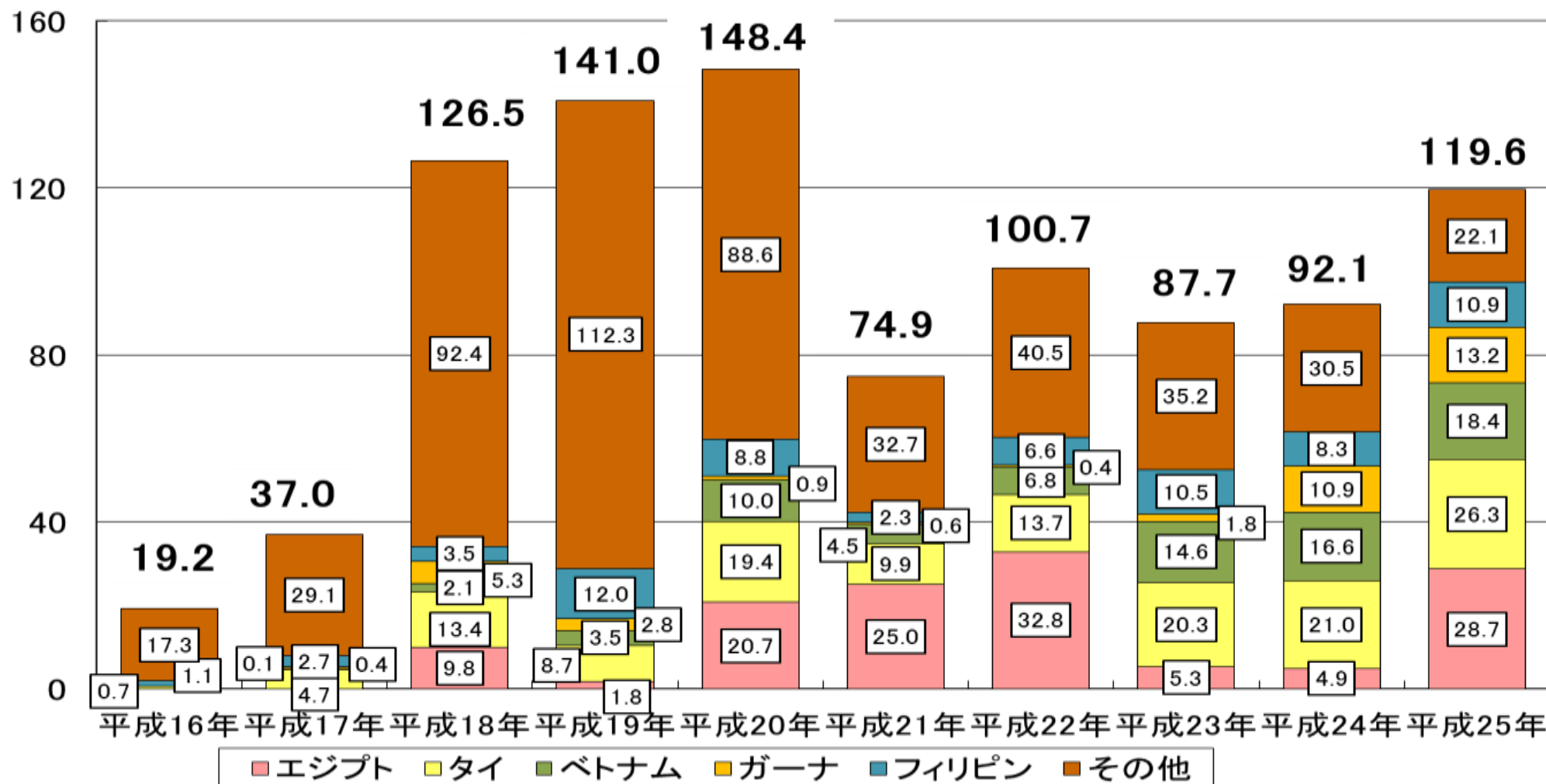


さばの輸出額・輸出先国の推移

MAFF

- さばは加工用を中心にタイ、ベトナム、フィリピンなど東南アジア向けの輸出の他、エジプトやガーナなどアフリカ向けにも輸出されている。

(億円)



数字は、平成22年まで冷蔵、冷凍。平成23年～25年は、生鮮、冷蔵、冷凍。 資料:財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

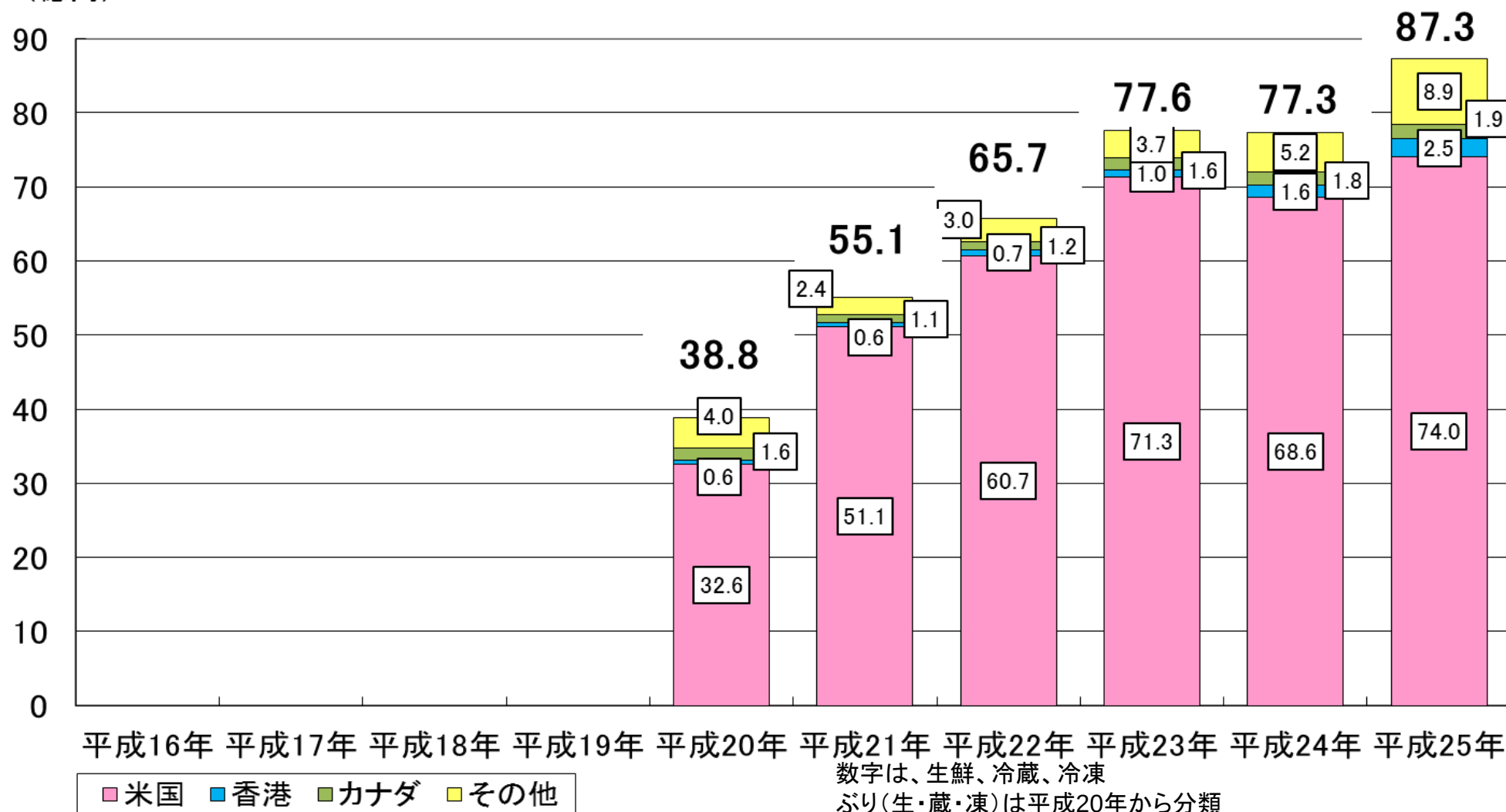


ぶりの輸出額・輸出先国の推移

MAFF

- ぶりの輸出額は、米国向けを中心に順調に増加。

(億円)



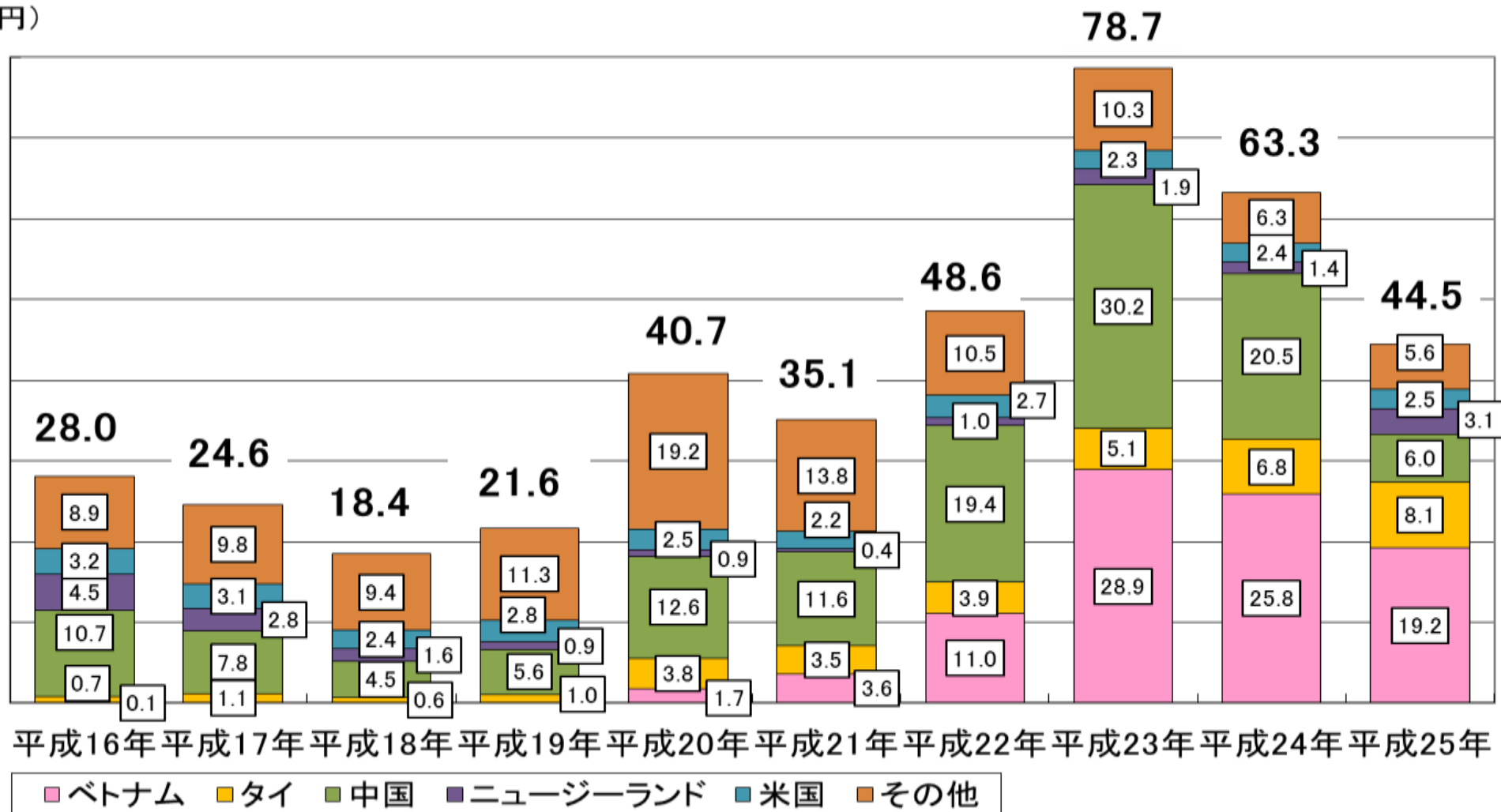


いかの輸出額・輸出先国の推移

MAFF

- いかの輸出額は近年減少傾向。
- 主に加工原料用としてベトナム、タイ、中国向けに輸出。

(億円)



数字は生鮮、冷蔵、冷凍

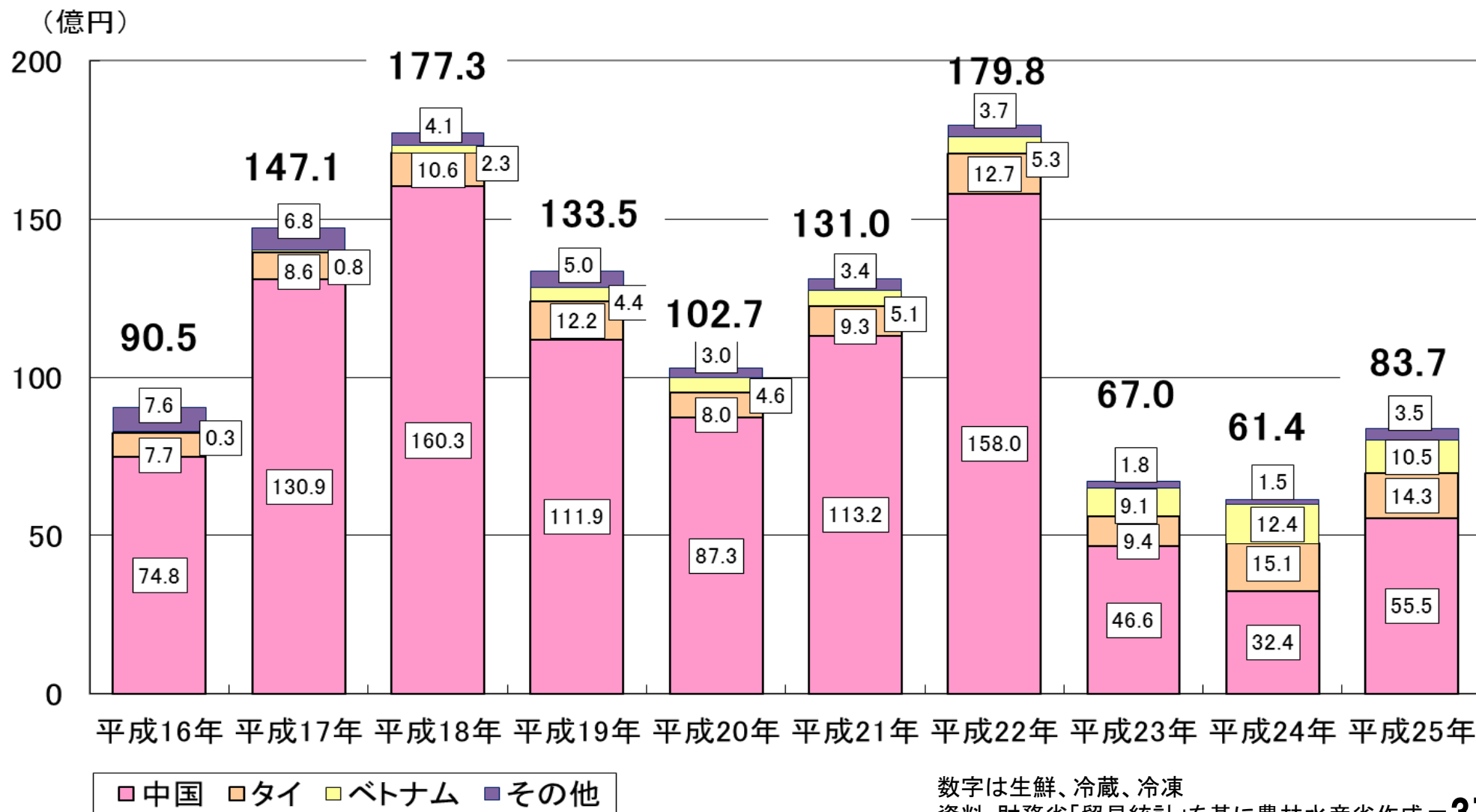
資料: 財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成



さけ・ますの輸出額・輸出先国の推移

MAFF

- さけ・ますは、我が国の主力輸出産品であったが、近年は不漁や東日本大震災等の影響により、輸出額は大きく減少。

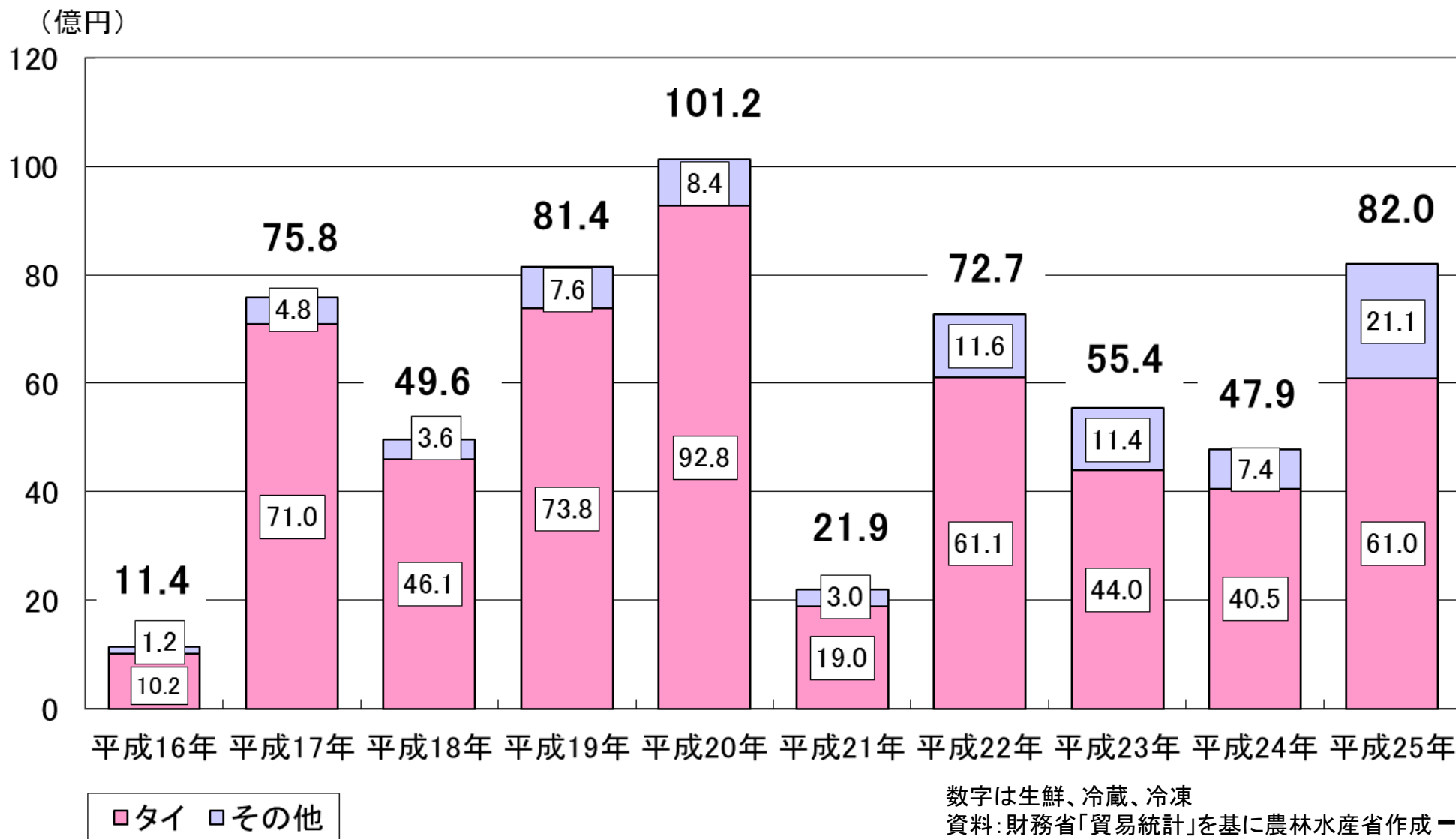




かつお類の輸出額・輸出先国の推移

MAFF

- 平成21年のかつお類の輸出額は、水揚げ量の減少や主な輸出先であるタイのバンコク相場の急落により大幅に減少したが、その後、回復。

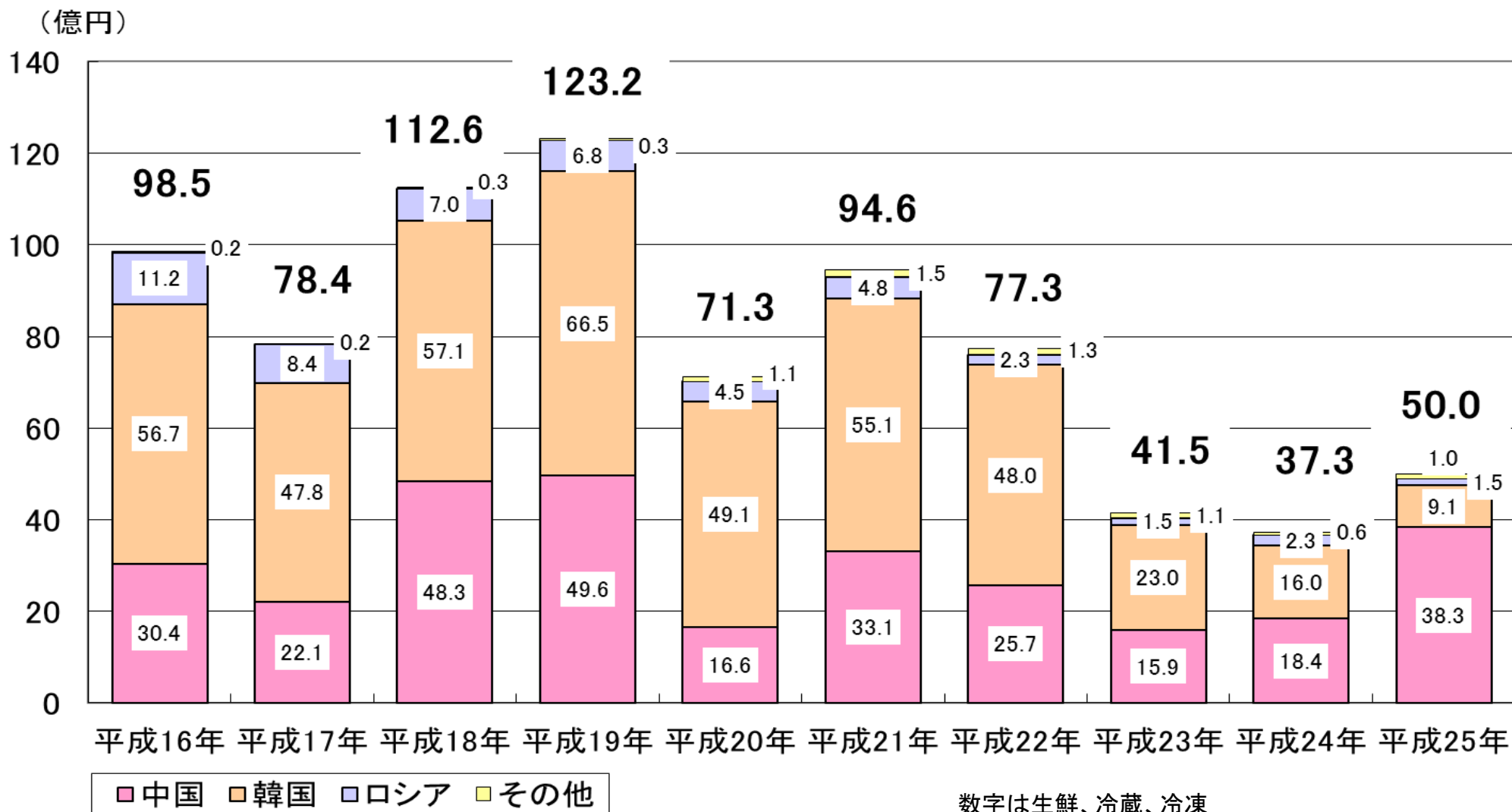




すけとうだらの輸出額・輸出先国の推移

MAFF

- すけとうだらの輸出額は、中国、韓国向けが多いが、近年韓国向けは減少傾向。
- 東日本大震災等の影響により、輸出額が大きく減少。



数字は生鮮、冷蔵、冷凍

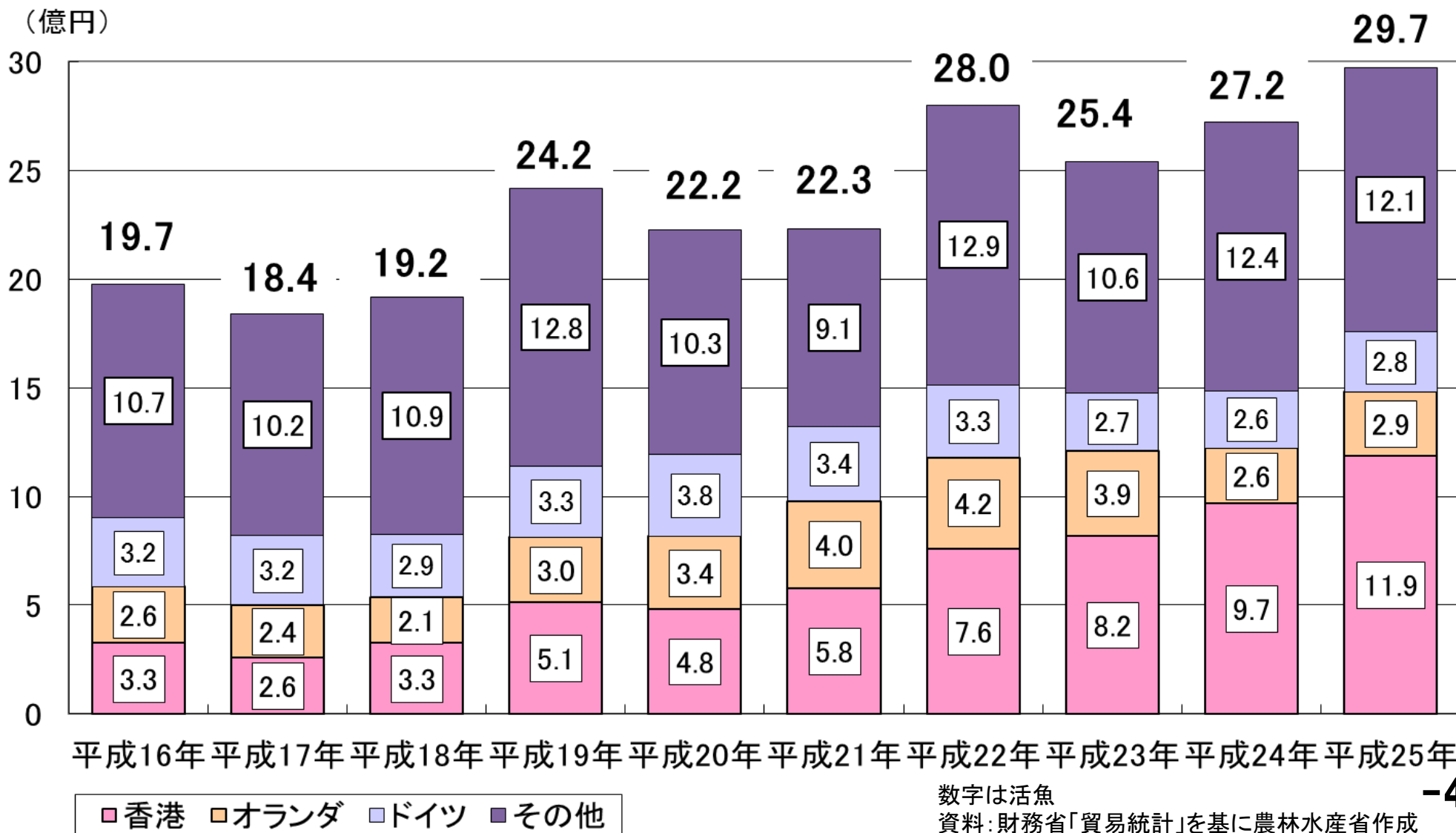
資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成 -39-



錦鯉等観賞用魚の輸出額・輸出先国の推移

MAFF

- 欧米やアジアの富裕層を中心に増加傾向。
- 盆栽と並んで、日本文化の象徴として楽しまれている。

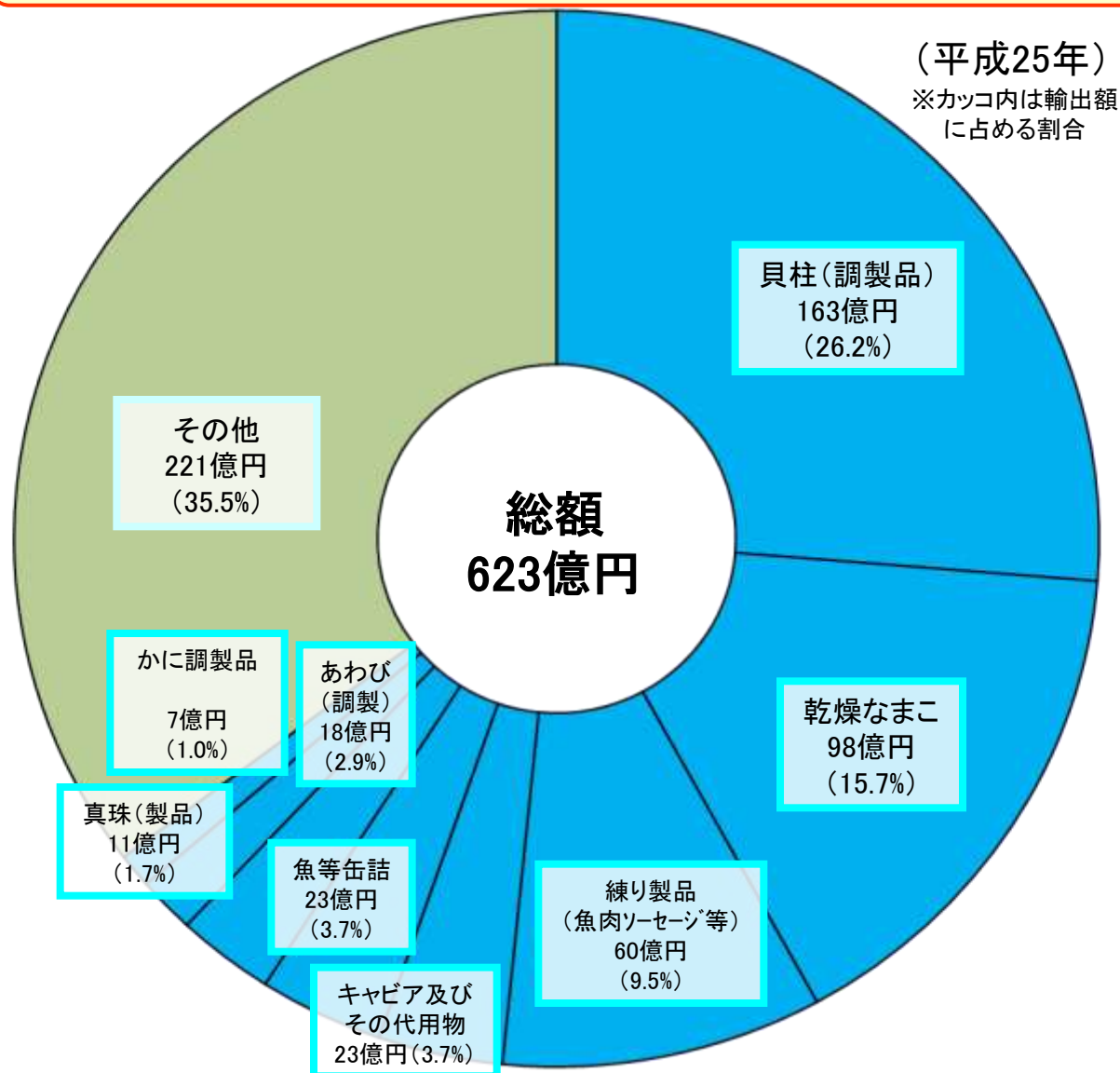




水産調製品の品目別内訳

MAFF

- 水産調製品の品目別内訳をみると、貝柱、乾燥なまこ、練り製品などの割合が多い。



(単位:億円)

品目名	平成24年	平成25年	増減率
貝柱(調製品)	121.9	163.1	33.8%
乾燥なまこ(調製)	106.3	98.0	▲7.8%
練り製品(魚肉ソーセージ等)	51.0	59.5	16.7%
キャビア及びその代用物	18.1	23.2	27.8%
魚等缶詰	22.3	23.1	3.7%
あわび(調製)	10.7	18.1	69.9%
真珠(製品)	12.1	10.7	▲12.1%
かに調製品	7.2	6.5	▲8.8%
その他	152.3	220.9	45.0%
水産調製品	501.7	622.9	24.1%

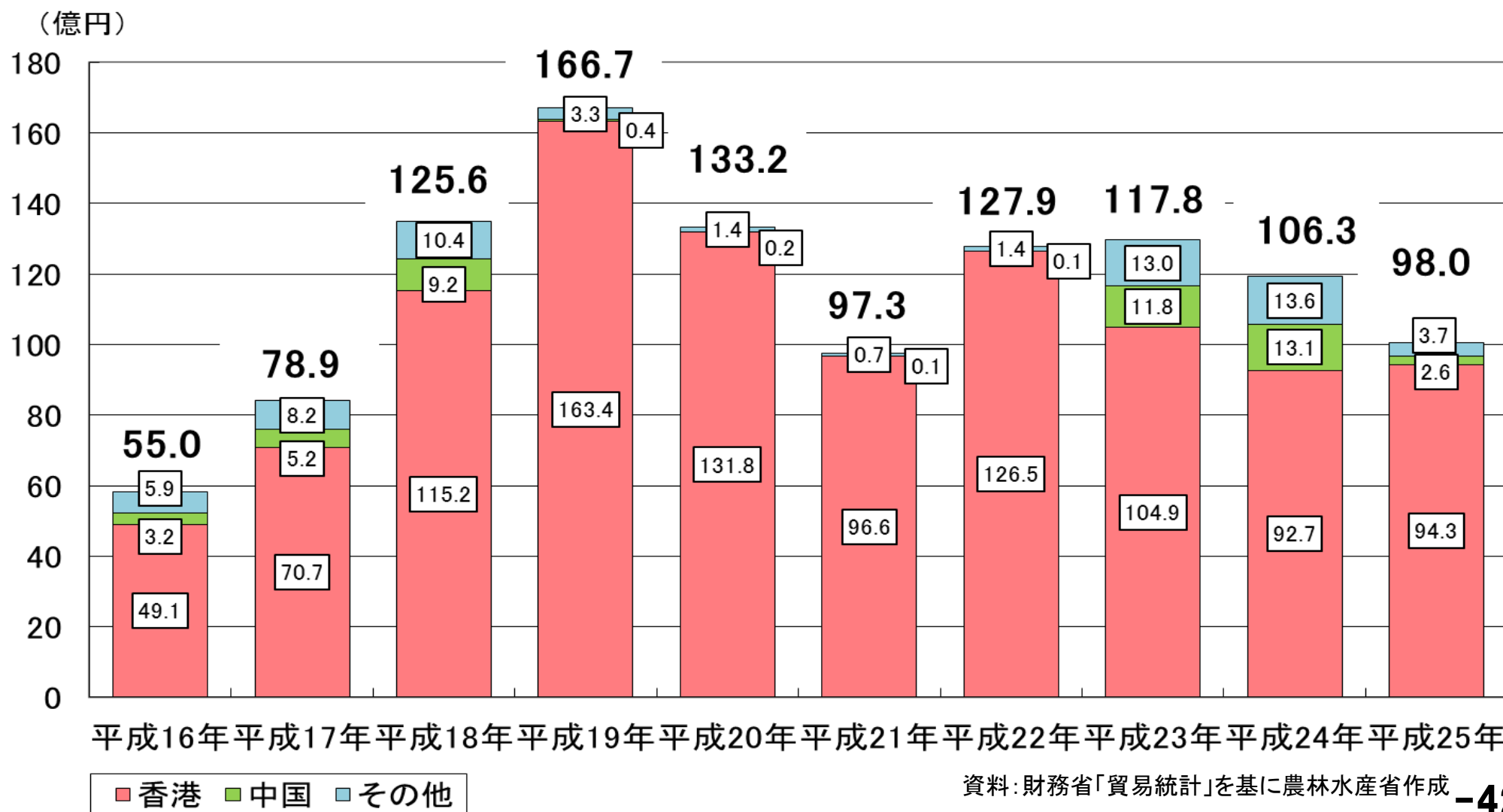
※ 乾燥なまこ、あわび・・・中華料理の高級食材として使用。
キャビア及びその代用物・・・いくら、たらこなど



乾燥なまこの輸出額・輸出先国の推移

MAFF

- 乾燥なまこは、「黒いダイヤ」と称され、香港では高級食材として人気だが、近年は輸出が減少傾向。



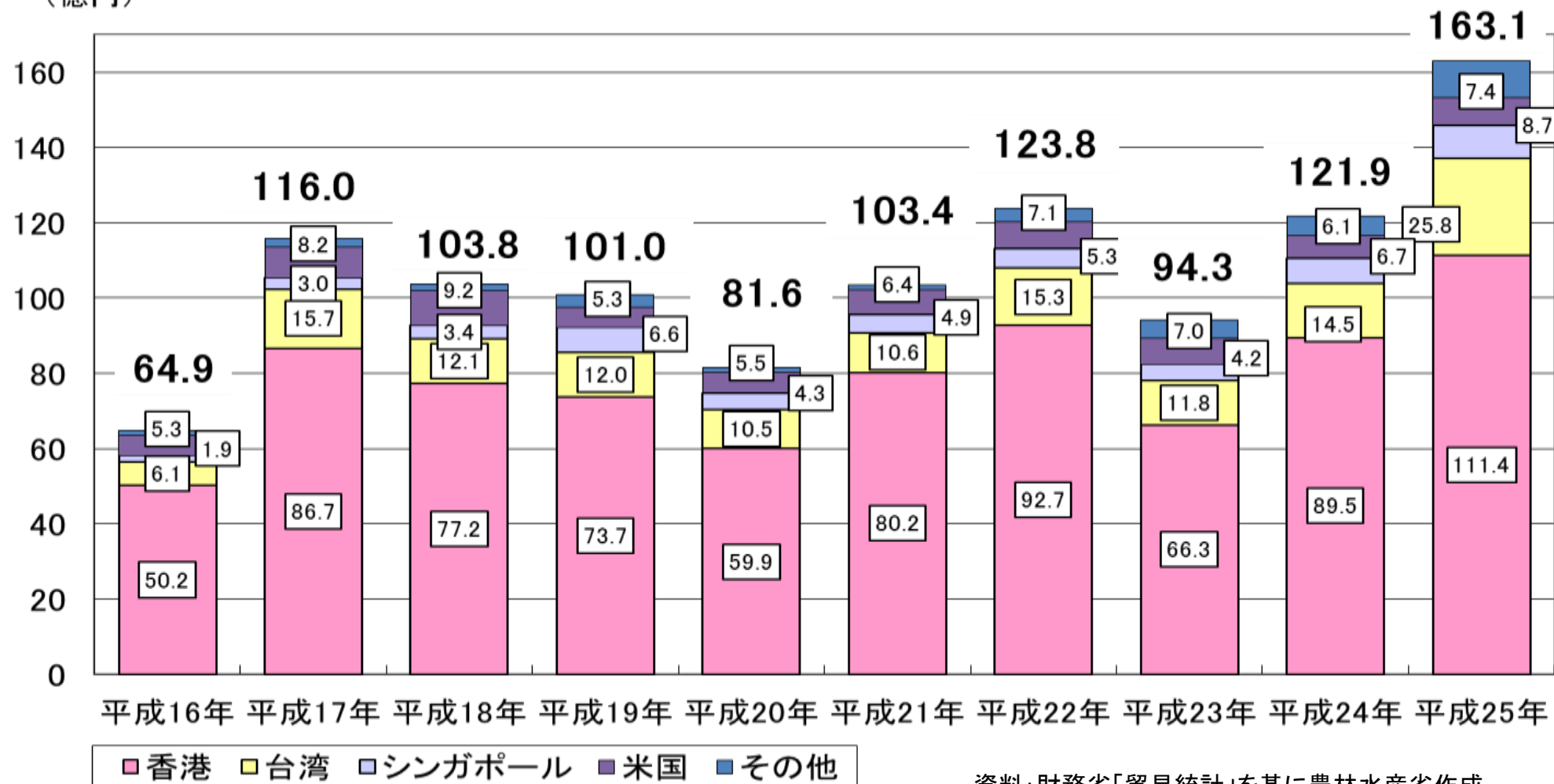


貝柱(調製品)の輸出額・輸出先国の推移

MAFF

- ホタテ貝の干し貝柱が中心であるとみられ、台湾や香港等において、中華料理の食材として使われている。

(億円)



資料:財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

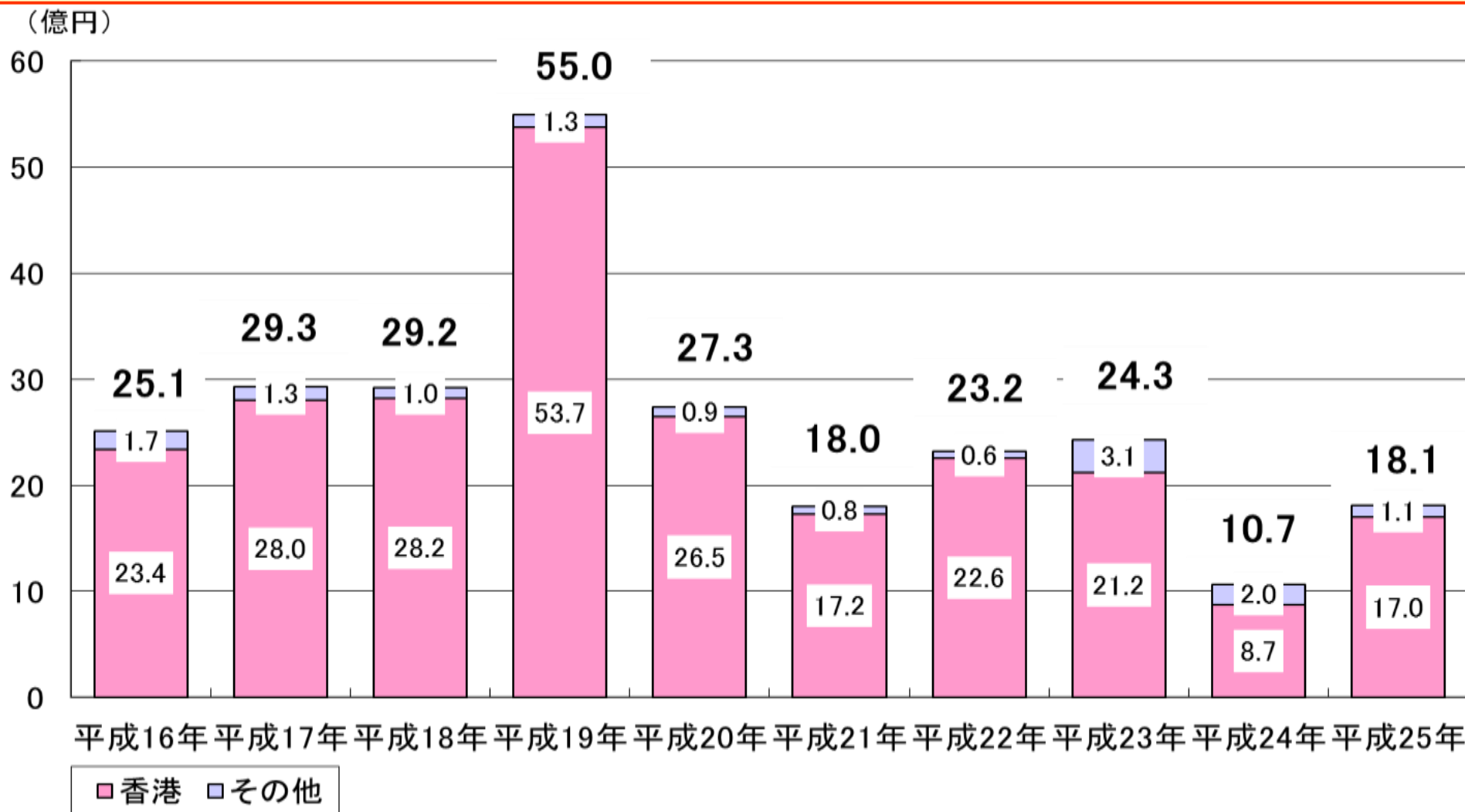
※平成24年以降の数字は貝柱とスキャロップ(いたや貝含む)(平成24年にHSコード新設)を合計したもの



あわび(調製)の輸出額・輸出先国の推移

MAFF

- あわび(調製)は、香港において、高級中華料理の食材として人気。



資料:財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成